

遠 2378 134

五色湖末柳柳合奏

文化十四年

隣香伴傳奇卷上

中世文庫

湖上笠翁編次

第一齣 破題

玄洲逸叟批評

西江月末上真色何曾忌色真才始解隣才物非同類自相

猜理本如斯不怪 奇妬雖輸女子癡情也讓裙釵轉將妬

瘡作情胎不是尋常癡派云

ト院本の本條三枚をり漢うて獨業と稱して、唐山湖上の季夏篇、日本平安の幼、
義和漢一雙の見合、古今來作者の魁首あり、事の奇しき文の乃する、をたぐふ止
中れり、筆く性、言く精、人の及する句、故にさ人の用ざる字を用い、人の筆、
情と擧、人の冷き、結き、徳と云む、それう、その盲蛇、そのふ、師さる、在下、かた、
は、めつ、べら、人の垣覗き、呆か、あ、れ、ふ、ま、ね、肉、ふ、足、を、洗、て、道、世、と、
あ、の、これ、米、櫃、の、底、に、想、像、れ、て、是、非、あ、く、筆、を、據、る、より、傾、く、五、色、
る、作者の意、畢竟如何、這箇題目、俗聴と媚て愛とある、○セム、ク、キ、と云ふ

式亭三馬戲題





腰
 下
 什
 女
 物
 一
 物
 一
 物

呼
 駒
 下
 駢
 の
 呵
 囉
 唱

前大徳利
 式亭三馬
 狂讚の

大磯の妓楼
 山口巴屋の小二は
 やあ金の蔵

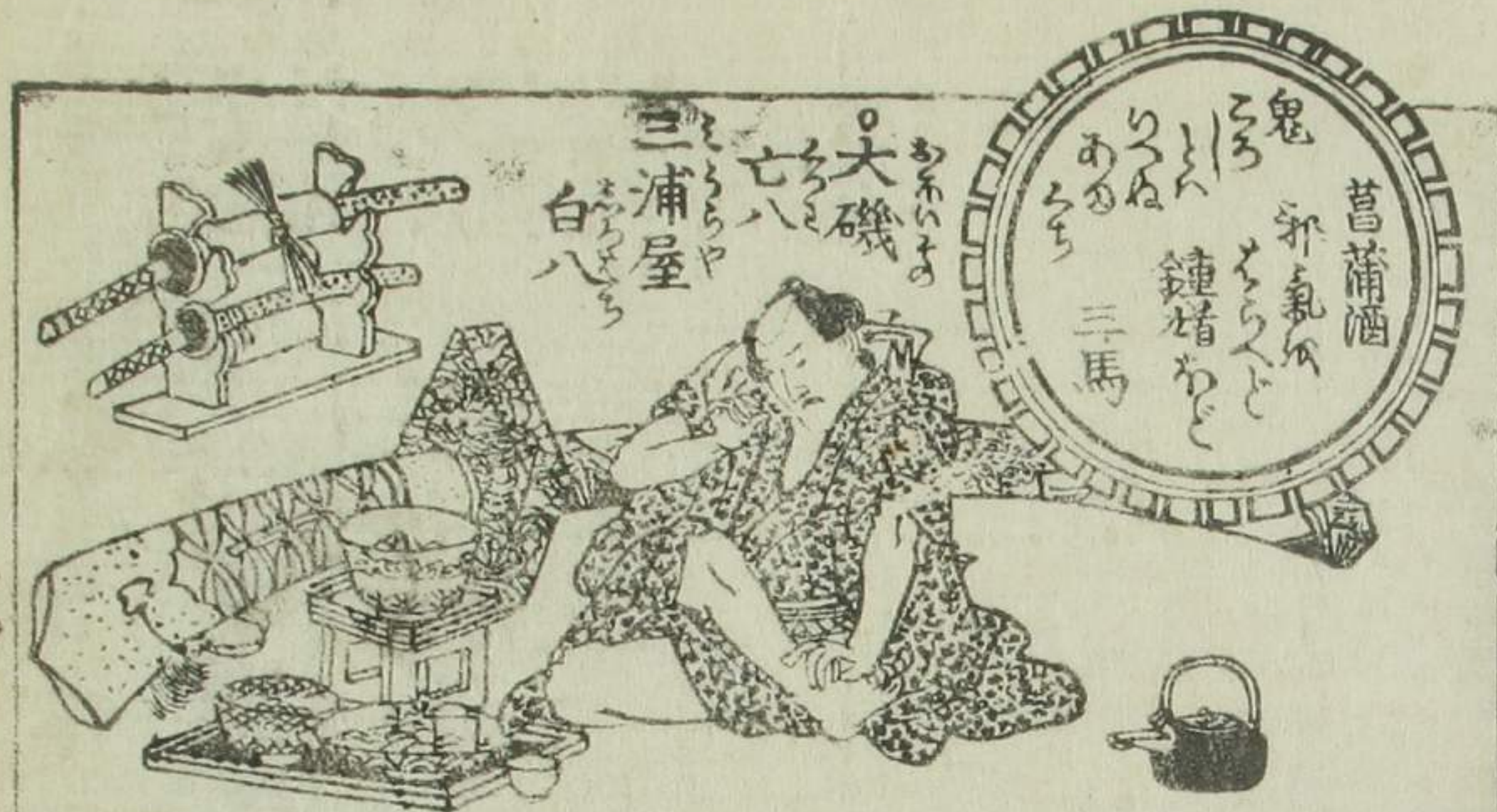
相列
 小田
 原の
 米高人
 丹波屋
 工左衛門
 養子
 栄三郎



柳巷花街
 翠隈紅圍
 柳花
 柳花

如何祖師西来意
 九半面壁
 十年
 苦界
 十年
 見性成佛の床の内
 直指人心のゆきありあり
 心外無別法
 不通
 不通
 不通

大磯
 浦屋
 遊女
 古今
 大夫
 拾遺
 後



かきくさ

21



甲斐の國 ありまの
 けの郡で 黄菊
 ようの 終の 三馬
 棟ら

鐵倉
 七里が濱
 細市場の
 扇文郎
 番傘の
 吉里良助
 栄三郎が舎兄
 お傘

古手屋乃
 美良女お袖

袖が賣母お組



かきぎの橋も
 今もあはれさあり
 むらも柄乃
 里のまの漱子
 三馬

丹波屋の至管六郎兵衛
 古手屋八郎兵衛

米問屋
 丹波屋
 門衛左

おきり



Handwritten text on the right edge of the right page.



Handwritten text in the upper right quadrant of the right page, surrounding the woman's head.

Handwritten text in the lower right quadrant of the right page, surrounding the woman's legs and sword.



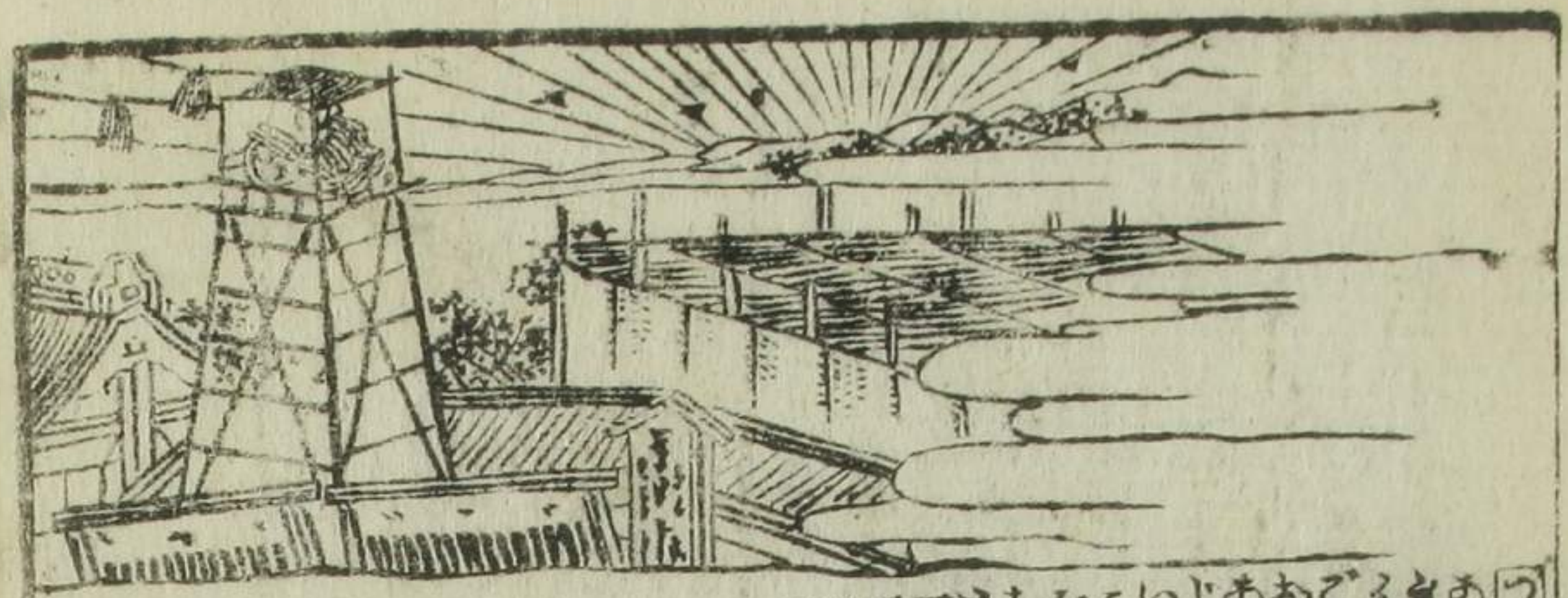
Handwritten text in the upper left quadrant of the left page, surrounding the man's head.

Handwritten text in the lower left quadrant of the left page, surrounding the man's legs.





あき けいりょう
 おき けいりょう
 仙鶴堂
 開板
 式部二属作
 歌川国貞画



あき けいりょう
 おき けいりょう
 仙鶴堂
 開板
 式部二属作
 歌川国貞画



東海道

三

東海道

三

みづのこゝろ

あつちのつゝのま あつちのつゝのま
江戸の水 あつちのつゝのま

百五十五文 あつちのつゝのま
百文 あつちのつゝのま

暖中細流 あつちのつゝのま
金勢丸 あつちのつゝのま

老中 あつちのつゝのま
小兒百目 あつちのつゝのま

龍樹散 あつちのつゝのま
天女丸 あつちのつゝのま

本家江戸本町 あつちのつゝのま
正月松 あつちのつゝのま

正月朝言 あつちのつゝのま

式亭三馬作 



歌川國貞画 

中世文庫

